

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想例【国語／国語総合】③

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

比較的学力は高く、着実な学習を行っていると思われる。論理的な思考もできるが、小説のように心情や心象風景をとらえる能力には個人差がある。

全体的におとなしく、間違えても自分から発言するような雰囲気はない。指示された事柄については確実に行うが、主体的に発想させ取り組ませることは難しい。個々には深い読み取りやユニークなとらえ方をする生徒も見られるので、そのあたりを上手に引き出しつつ指導していくよう心掛ける。

2. 単元名

文章に描かれた人物、情景、心情を表現に即して読み味わう。（全7時間）

教材：太宰治『富嶽百景』（『精選国語総合』東京書籍）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	○小説『富嶽百景』の構成を理解している。 ○『富嶽百景』の表現の特徴を理解している。
②思考・判断・表現	【読むこと】（文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう） ○材料A～Cを踏まえ、「私」の心情を表現に即して読み味わっている。
③主体的に学習に取り組む態度	○材料A～Cを踏まえて「私」の心情を読み味わうにあたり、自らの思考の過程を客観的にとらえようとしている。 ○小説を読むおもしろさに気付き、他の文章に興味を持ち、読もうとしている。

4. 本時の目標

（略）

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い
「私」の心情は、富士の姿にどう映っているのだろうか？

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
それぞれの視点から本文を読み解く。		
『富嶽百景』の中で、「月見草」の場面はどのような役割を果たしているか？	タイトルはなぜ『富嶽百景』なのか？	作家太宰治が、『富嶽百景』の文体にどう表れているか？
【材料C】 ・文体とは、文章のスタイル、その人らしい文章表現上の特色をいう（教科書解説ページより）。 ・「太宰はどのような自己を主張し、世の中に認めさせようとしたか。それは欠如感覚を抱いた自己であり、日陰者、弱い者としての自己であり、他と異なっているという不安と恐怖と孤独感覚にさいなまれている自己である。このような自己を主張することが、自分と同じような罪の意識に悩まされている多くの人々を安堵させ、力づけ得ると信じたのだ。」（奥野健男『太宰治論』）		
想定される活動	想定される活動	想定される活動
小説全体の構成の中で、月見草の場面を境に、富士に対する意識の変化が見られることに気付く。	その時々的心情が様々な富士の姿に投影されていることを象徴するタイトルであることに気付く。	「欠如感覚を抱き、不安、恐怖と孤独にさいなまれている弱者」という太宰治像が、文体の不安定さに表れていることに気付く。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

材料A、B、Cによって個人の考えを整理した後、グループの対話によって「解決したい課題や問い」の解決に取り組む。

[材料A]（活動を通して、俗なものを拒否して孤高に生きる老婆との出会いと月見草の発見を契機に、「私」が俗の象徴として否定的に捉えていた富士が、「私」の中で次第に美しく、頼もしい存在へと変化していることに気付く。）

[材料B]（活動を通して、小説に登場する様々な富士の描写は「私」の心境を反映したものであり、それがそのまま「富嶽百景」というタイトルになっていることに気付く。）

[材料C]（活動を通して、欠如感覚を抱き、不安、恐怖と孤独にさいなまれている弱者としての「太宰治」が、文体の不安定さに表れていることに気付く。）

▶当時の「私」（作者）は、他と異なっているという不安と恐怖、孤独にさいなまれていたということでもいいよね？▶その心境を「東京の、アパートの窓から見る富士は、苦しい」という表現や、御坂峠から見る富士を「風呂屋のペンキ画だ」と評する態度から垣間見ることができるね。▶それなら「あの富士は、ありがたかった」、「富士も、ばかにできないぞ」「富士に頼もう」といった表現が登場するのはどうして？▶富士の描写に「私」の心境が表れているとするなら、その心境に変化があったんじゃないかな。▶そうか。そのきっかけとなった出来事が、孤高に生きる老婆との出会いだね。あの場面で「私」は、小さくても富士と立派に対峙して微塵も揺るがない月見草と、自分自身を重ねていたんだ。▶あの時、日陰者であっても、前向きに力強く生きて行こうという意志を確かなものにしたんだね。▶それなら、写真を撮影する場面で、富士山だけを写してお礼を言った理由も何となく分かるな。

各グループによる話し合いの過程やまとめた見解を発表し合う。その後、改めて「解決したい課題や問い」について個人で考察し、自分の考えを300字程度にまとめる。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

[300字程度のまとめ]

御坂峠は富士の名所だ。典型的な美を誇る姿を「私」は「風呂屋のペンキ画」とばかにする。誰しも美しく愛でる富士が卑俗なものにしか見えない「私」の心に屈折があるのだ。世間から取り残された日陰者である「念々と動く自分」の「愛憎」は、不安定な文体に表われている。心情の揺れ動く「私」の目には、その時々々の富士の姿が違うものに映る。しかし富士は常に変わらずそこに在る。月見草の場面における、俗なものを拒否し孤高に生きる他者への共感を境に、「私」の心の色合いは一変する。後半は、人間への信頼を回復し、人生への意欲を確かなものにすることに気付く「私」が描かれている。タイトルの『富嶽百景』は、そのまま「私」の心の百面相なのである。(306字)